

# 東京からこんには

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さの可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

# 駿府城跡から出土の石、販売しては？

ハンドベル指揮者・演奏者  
江頭せつ子さん

## 様々なジャンルを演奏

音楽的なセンス、表現力は早くから一目置かれ、高校3年のときに学生音楽コンクールの全国大会(毎日新聞社主催)で準優勝した。東京藝術大学声楽科を卒業し、二期静岡市内の県立高校で音楽を教えた。

ハンドベルとは「偶然の出会い」。ご主人の転勤で渡米し、帰国後、10年経った頃、「自宅近くにある教会の牧師さんからハンドベルを紹介され、音楽好きな英会話グループの人たちと始めました」。

英国発祥のハンドベルは讚美歌な

ど、教会音楽の演奏などに使われていたが、現在ではクラシックや日本歌曲など様々な曲が演奏される。

「澄んだ音、華やかな演出もそうですが、あらゆるジャンルの曲を編曲の工夫によつて楽しく聴かせてくれるのも魅力の一つですね」。江頭さん自身、編曲を手がける。

両手に大小のベルを持つて演奏するのが一般的だが、打ち方や演奏方法には様々な形がある。ハンドベルの指導を始めて今年で28年。「ハンドベルはチームワークや責任感が求められる、人間教育という意味の教育楽器なんです」と語る。

## 発掘現場を見て感想語る

小中高校ともに、駿府城公園の堀端が通学路だった。そのため「私にとつての静岡はお堀端の光景ですね」。

その駿府城公園では、江戸城を上回るとされる駿府城跡天守台の発掘調査が進み、金箔瓦や石垣、小石が数多く出土している。発掘現場を見て「不要な石をただ捨てるのではもったいない。欲しい人に売ったらどうでしょうか」と思ったそう、「実際、私の知り合いでも、販売するなら記念に買いたいという人もいます」と話す。「難しいかもしれませんが、例えば石垣に個人名を表したりとかができたら面白いですね」とも。

先ごろ、地震で破損した熊本城天守閣の屋根瓦の販売が全国的な話題になった。この「石」の「販売アイデア」、新たな観光コンテンツとして検討してみてもどうだろうか。

「自宅に駿府城の石垣の小石を置くだけでも楽しいじゃないですか。石も金なりですかね」と江頭さん。「駿府の繁栄に貢献した今川氏と併せ、静岡に行く」と歴史に出会えるみたいになまちなってほしいですね」。

(文・写真…長田義明)



Setsuko Egashira

静岡市葵区生まれ。県立静岡城北高校卒業。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。県立清水南高校音楽科教師、計3回の米国在住を経て帰国した10年後にハンドベルと出会い、今年で指導歴28年。高校で音楽部長。3年生のときに毎日新聞社主催の全日本学生音楽コンクールに出場し準優勝。大学での専門は日本歌曲とイタリアオペラ。ソプラノ歌手上浪明子氏らに師事。2015年、鎌倉芸術館で25周年記念コンサートを開催。主に神奈川県下でハンドベルの指導に当たる。